

8月10日(火)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ

日刊サマーミュージック

朝刊

Hobo Nikkan Summer Muza



8月9日
東京交響楽団
フィナーレコンサート

人間から地球へ ～持続する「共生」を音楽で描く

人間から地球へ～持続する「共生」を音楽で描いたフィナーレコンサート

フェスタサマーミュージック KAWASAKI2021のフィナーレコンサートは昨年に続き、原田慶太楼指揮 東京交響楽団(東響)が担った。川崎市とプリティッシュ・カウンシルによる「かわさき=ドレイク・ミュージック」で東響楽員を含むプロの音楽家、市内特別支援学校の生徒たちが障がいのあるなしに関係なく一緒に創作した新作「かわさき組曲」の世界初演が目をつけた。

冒頭のヴェルディ「歌劇《アイーダ》から凱行進曲とバレエ音楽」は作品の初演150年と作曲者の没後120年、後半の吉松隆「交響曲第2番《地球(テラ)にて》」は初演30年。アイデア豊富な原田らしく「30の倍数」でプログラムを組んだ。

「かわさき組曲」は《アイーダ》に受

けたインスピレーションから出発、テクノロジーも活用しながら4曲の美しい組曲に仕上げた。子どもたちはコロナ禍でオーケストラと共演はできなかったが、客席で聴いた。「日本の音楽界はこれから、バリアフリーになります」と原田が宣言、東響も渾身の演奏で何か、とても大切なものを懸命に伝えた。

パイプオルガンには各曲の色が投影され、最後は多様性を象徴する虹色(レインボウ)に。後半の1曲目、カルテット・アマービレをソロに迎えたJ.アダムズの「アブソルート・ジェスト」は耳の障がいと闘った作曲家ベートーヴェンを下敷きとし、吉松の壮大な交響曲では、その鼓動が世界、地球の平和への願いへと昇華する。アマービレも原田も東響も吉松も、心をつなげた強いメッセージが放たれる。共生社会でのオーケストラ演奏会のあり方に、確かな一石を投じた。 池田卓夫(音楽ジャーナリスト@いけたく本舗®)



右から原田慶太楼(指揮)、交響曲第2番「地球(テラ)にて」の作曲者吉松隆、カルテット・アマービレの菅沼樹(チェロ)

お客様から

(偶然を引き寄せるのも含めて)マエストロならではの選曲にフィナーレがとても盛り上がりました。祭りはあつという間に終わってしまいましたが、アーカイブで今月いっぱい楽しみたいと思います(会社員・せぶら) / マエストロ原田の試み、それを見事に実現するオーケストラ。熱く、深い想いを感じると共に、これからの音楽のあり方として、一歩進んだ姿を拝見した気が致しました(50代・主婦業・ゆうこ) / かわさき組曲、普通(?)良かったです。私も参加してみたい。息長く続けていって下さい(60代・おけらまん) / 吉松隆の交響曲第2番、素晴らしい選曲です。今の時代のこの日この時に聴けて、本当に良かったです(匿名) / オープニングコンサートではヴァレーズ・ガーシュイン、フィナーレコンサートでアダムス・吉松隆という選曲、なんだかすごい気がする(60代・再雇用社員・SonicMan) / 感動の涙を止めることができませんでした。サマーミュージックのどの公演も本当に素晴らしかったです。公演もこれで最後、会場・映像配信のスタッフの方々に感謝!(70代・主婦・多幸ちゃん)

サマーミュージック公式サイト

<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>



#サマーミュージックで投稿してください!



Twitter: @summer_muza



Facebook: @kawasaki.sym.hall



Instagram: @muzakawasaki

アーカイブ配信中! 8月末まで見放題♪



- 臨場感あふれるカメラアングル
- こたわりの音質
- 配信オリジナルのコーナー

オンライン視聴券

全20公演セット券 13,000円
1回券 500円~1,500円

購入。視聴はミュージック Web チケットで!